

## 環境影響評価審査会 神鋼神戸製鉄所火力発電所部会（第4回）部会審議概要

- 1 日時：平成30年1月22日（月）9:30～11:55
- 2 場所：ラッセホール 5階 サンフラワー
- 3 議題：株式会社神戸製鋼神戸製鉄所火力発電所（仮称）設置計画に係る環境影響評価準備書の審査について
- 4 出席委員：  
（部会委員）西村委員（部会長）、川井委員、近藤委員、澤木委員、中野委員、  
西田委員、益田委員  
（部会委員外）三橋委員 山下委員
- 5 関係課等：  
兵庫県環境影響評価室、自然環境課、水大気課、温暖化対策課、環境整備課、水エネルギー課、阪神北県民局環境課
- 6 配付資料：  
資料1 補足説明資料（大気環境関係）  
資料2 補足説明資料（騒音・振動・低周波音）  
資料3 補足説明資料（準備書及び補足説明資料記載内容の修正）
- 7 事業者による説明概要
  - ・神戸発電所における設備構成と各設備からの水銀排出量についての説明  
（関連資料：資料1）
  - ・騒音・振動・低周波音の項目に関する準備書の内容についての説明  
（関連資料：資料2）
- 8 審議での主な意見等（部会後概要説明内容）
  - ・調査日によって水銀量のアウトプットにばらつきがある理由は何か。  
（事業者） 同じ炭種でも石炭中の水銀濃度にはばらつきがある。また、発電設備への石炭の投入から、集じん装置からの石炭灰の排出並びに脱水機からの脱硫酸石膏の排出までに数時間のタイムラグがあることが原因である。
  - ・本事業で使用する石炭中の水銀濃度は、武豊火力発電所で使用される石炭中の水銀濃度と比較してどれほど差があるのか。  
（事業者） 武豊火力発電所で使用される石炭の産地は、本事業と同じ豪州やインドネシア等の石炭だと考えられる。武豊火力発電所のアセスでは、本事業とは異なり、同発電所で使用されている石炭中水銀濃度の平均値で計算しているようである。本事業では、既設1、2号機で今まで使用した石炭で測定された最大の水銀濃度を基に、濃度の変動を考慮し、より安全側で評価している。
  - ・水銀の総排出量の内、排ガスとして10数%が排出されるのは、割合として比較的高い印象だが、技術的にこのようなものなのか。  
（事業者） 環境省や電力中央研究所の報告書では30%前後だと報告されている。本準備書では26.9%としており、同程度だと考えている。水銀除去効率を上げるため、

過去に電気集じん機や排煙脱硫装置の運転条件を変えて検討してみたことがあるが、顕著な結果は得られていない。

・準備書 p827 の道路交通振動の予測結果表で、現況実測値と現況計算値に差がある理由はなにか。

(事業者) 一般的に用いられている予測式では、ハーバーハイウェイの影響を反映しきれていないことによるものと考えられる。地域の特徴による誤差を考慮し将来計算値を補正している。

・準備書 p1303 で、発電所運転に伴い発生する産業廃棄物のうち、ばいじんや燃えがらはセメントリサイクルされるとあるが、含まれている水銀はどうなるのか。

(事業者) セメント製造業者に引き渡す際の品質基準があり、その基準を満たすものを引き渡している。セメントで固化するため、セメント製品から水銀が溶出することはない。

・準備書 p1300 に記載されている工事の実施に伴い発生する産業廃棄物、p1303 に記載されている発電所運転に伴い発生する産業廃棄物に関して、発生量、有効利用量、処分量はどのように算出したのか。

(事業者) 工事に伴い排出される廃棄物は、他の同様の工事事例を踏まえて算出し、発電所運転に伴うものは、現在稼働している 1、2 号機の実績を踏まえて算出した。